

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>1. ラオスにおいて障害者の安定収入向上を目指し、障害者指導員による持続可能な技術移転を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害当事者指導員候補生の給料が平均180ドル以上である。 ・ 障害当事者指導員候補生達により、経営・会計管理が行われ、仮想ビジネスからプロジェクトを経て実際の高度なビジネスマネージメントが研修生によって行えるようになった。 ・ 障害者指導員により、技能研修が行われ、様々な障害種別（知的、身体、発達障害）からなる後進の障害者研修生に技能やスキルを指導することができている。 <p>2. ラオス社会、とりわけラオス企業に向けて障害者就労の理解・啓蒙を広め、障害者就労のサポート企業を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、ラオス国内の81の企業、団体、商店等と提携することが出来ており、障害者就労を促進するためのサポート企業数は順調に増えており、事業終了後の8月の収支を確認したところ、完全自立を達成した。
(2) 事業内容	<p>(ア) 技能訓練指導員養成研修</p> <p>①車椅子製造・修理・販売、福祉リハビリ機器製造指導員養成研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2015年11月8日～15日 日本人専門家 対象10人 <p>日本人及びタイ専門家より、バスケット用車いすの製造と修理、メンテナンス方法の指導が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2016年7月5日—7月12日 日本人専門家 対象：10人 <p>日本人専門家による車椅子修理・製造・セールス研修指導が行われた。</p> <p>②ベーカリー指導員養成研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2015年10月7日～10日 日本人専門家 対象8人 <p>日本人専門家により、既存の商品の作業確認、効率性向上、品質管理方法指導、新しいレシピの提案等が行われた。ラオスオリジナルな材料を使った焼き菓子の試作品を試食、チェックが行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2016年1月11日—14日 日本人専門家 対象6人 <p>日本人専門家により、既存のパッケージの新規案作りやラオス人研修生とともにデザイン・包装などのより付加価値をつけて販売し、収入につなげるためのクッキー+αインセンティブパッケージ研修を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2016年5月5日—8日 日本人専門家 対象8人

日本人専門家による新規のケーキレシピの研修。ラオスは南国フルーツ（マンゴー、パパイヤ等）が豊かに実る国であることからフルーツケーキの需要を見込みクオリティーの高いケーキやタルトのレシピに挑戦、レシピを習得。すぐに現在取引のある大手スーパーやカフェにサンプルを届けビジネスにつなげた。

③美容研修

・2015年8月15日～24日 日本人専門家 対象5人

日本人美容専門家によるカット、カラー、縮毛矯正を中心とする技術理論講義、相モデルでの実践、専門家の施術の見学、実際の顧客に対する実践指導等が行われた。またフェイシャルエステの講義も行われ、結婚式場、貸衣装屋業者等に実際に訪問し、マーケティング調査、営業活動も行われた。

・2015年9月7日～11日 日本人専門家 対象5人

ラオファッションウィークに参加した。日本人専門家がヘアショーを行い、研修生たちはアシスタントとして参加した。ステージ上での観客の視点を意識したヘアアレンジの提案が行われ、研修生たち各自が日本人美容師のアドバイスを参考にし、研修生一人がモデル一人を担当し、ヘアアレンジメントを担った。ショーの前から、モデルにサロンの来てもらい、各自の考えたヘアアレンジの練習を行っていた。

・2015年11月6日～20日

日本人美容専門家によるカット、カラー、パーマ、縮毛矯正を中心とする技術理論講義、モデルによる実践、専門家の施術から学ぶOJT、実際の顧客へのサービス、実践指導が行われた。指導員候補の研修生が実際にカラーやパーマを施術することも多くなり、様々な技能を修得できるところまで指導が達成され、20人のラオス人、在ラオス駐在者等、顧客への満足度調査アンケートも実施。80%以上の顧客がADDPサロンへの満足度を示し、サービスの面でも他の美容院と比較しても顧客満足度の高いサロンへと成長した実績を作った。

・2016年5月12日～24日（うち10日間）

日本人美容専門家によるカット、カラー、縮毛矯正を中心とする技術理論講義、相モデルでの実践、専門家の施術の見学、実際の顧客に対する実践指導等が行われた。特にカラー、カットの技能を磨き、実際に顧客に向けて研修生が実技を行った。

④ I T印刷研修

・ 2015年8月2日～10日 日本人専門家 対象4人

日本人専門家による、名刺作りを中心とする印刷物の作成、編集作業の指導が行われた。

・ 2016年7月20日—25日 ラオス人専門家 対象3人

ラオス人専門家による、パンフレット構成のポイントやWEBデザインなどを学んだ。ADDPベーカーリー部門の宣伝パンフレットの作成をOJTで実施。

(イ) 技能訓練指導員へのOJTによる仮想就労の場を提供しビジネス訓練を常時行う

・ 日常的に当会技能訓練ワークショップにて、実際のビジネスとして、訓練を行っている。

・ 当会技能訓練ワークショップの仮想就労の場(OJTメソッド)はラオス社会でも評価を受けており、スタディーツアーやLDPA(ラオス障害者協会)からも過去4回、述べ60人の見学者を迎えている。

(ウ) タウンミーティングの実施

・ 2016年1月11日、知的障害の親、近隣住人、知的障害当事者、関係者、学校関係者を集め、事業の説明、知的障害者就労の可能性や今後の協力関係についての話し合いを持ち、障害者のそれぞれの種別の特性にあった就労のあり方と支援の方法などについて話し合った。

・ 2016年3月14日 ラオス国立大学ビジネス経営学部の学生とのタウンミーティングの実施。7名のラオス国立大学のビジネス経営学部の学生と障害者によるソーシャルビジネスと連携をする新しいビジネスのあり方研究会を立ち上げ、インクルーシブな社会構築のため新しいビジネスがどのような役割を持つべきかの意見交換会を行った。

・ 2017年7月14日 美容サロン近隣の住民、障害当事者、近隣学校関係者30人を集めたタウンミーティングの開催。今後の地域に開かれたADDP美容サロンの運営やろう研修生とのコミュニケーションのための手話講座を行うことの告知、地域が障害者を受け入れ、共に協力し合い、サロン運営にも積極的に顧客として、またPRを行う広報要員として地域住民との人間関係の構築がこの2年で急速に発達し、サロンの存在も多くのラオス人に認知された。

また、9月に行われるラオスファッションウィーク2016年のヘアアレンジメントを中心的に行うパートナー団体としてADDP美容サロンチームが名を連ね、ラオス人上流階級の顧客もADDPサロンの顧客リストに連ねていることから、ラオス社会とりわけラオスファッション業界の社会貢献の一環で当会の事業が取り上げられ、ファッションウィーク（9月12日—16日）では当会指導員候補の研修生が大活躍を見せた。これもラオスのサポート企業・社会がADDP美容サロンとりわけ障害者就労を支え啓発していくラオス側の積極的な姿勢を2年の事業を通じて引き出すことが出来た大きな成果である。

（エ） ビエンチャンをベースとしている国内外企業・団体に向けた障害者就労促進や啓発ミーティングの実施、プレゼンテーションによる当会前事業の成果・障害を持つ研修員の技術力の高さをアピールし、企業内のCRS事業に組み入れる交渉

・提携する企業または新規民間国内外企業を訪問し、当会の事業を説明している。特にクッキー製造販売、美容施術提供、IT研修の一環である印刷技術研修「名刺作成事業」を通じて、企業との提携を模索し、当会技能研修に参加している障害を持つ研修員の技術力の高さ、生製品の質の高さを企業や民間団体に向けて積極的にアピールを行っている。

・提携する企業顧客も着実に増え、当会の障害者の高度な技能は既にラオス社会で認知度が高く、引き続きサポート企業やパートナー団体は増え続けている。当会も広報（FB等）を通じて積極的に当会の様々な取り組み（障害種別を越えた障害者の連携による誰も排除しない働く場の構築や決め細やかなそれぞれの障害ニーズや特性に合わせた仕事の分担制度）を社会にアピールしており、その障害者の職能の開発やピアサポートの充実度が障害者分野だけでなく、ラオス社会、企業にも大きなアピールとなっており、企業の中では積極的に連携を模索したいとするビジネスパートナーシップの申し出がいくつか出てきた。

・2015年8月15日～22日

美容研修生たちが日本人美容専門家と結婚式場、貸衣装屋を訪問し、エステの施術を行い、障害者支援、障害者就労の啓発を行った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2015年12月 ビエンチャンのホテルに向けて、クッキーの取引を通じた障害者支援の形を提案し、客室用のお菓子として、取引が成立した。 ・ 2015年12月14日15日 Regional TVET Conference Lao でブース設置、事業紹介、販売を行い、取り組みや企業との提携を紹介した。また会議にクッキーをお茶菓子として提供した。 ・ 2016年4月 ビエンチャン・インターナショナル・スクールのチャリティーイベントに当会ADDPサロンチームが出店。 ・ 2016年10月5日 ラオスの大きなカフェチェーン「カフェアマゾン」と業務提携を結び、ラオスにおけるカフェアマゾンの店舗で当会のクッキー販売が始まる。 ・ 2016年7月 車椅子バスケットボール用車椅子の修理を請負、全車椅子のメンテナンス・修理を担当（USAIDからの受注）。 ・ 2016年7月14日 ルアンパバンの「ソフィテルホテル」で当会クッキーが宿泊客のウエルカムキットの中に置かれることとなる一業務提携 ・ 2016年7月20日 ラオスファッションウィーク2016への正式なパートナーシップ契約を結ぶ。（ADDP美容サロン） <p>（オ）技能訓練指導員の本邦研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2015年8月31日～9月5日 研修生2名 研修先：第3回アジア太平洋 CBR 会議、NPO 法人ぱれっと 各国の地域に根差した障害者支援の取り組みを学び、展示ブースを設置し、特にアジア圏におけるネットワークを作った。また、NPO 法人では地域に根差した障害者支援の取り組みを視察し、お菓子作りにおける衛生管理の方法や、チームのマネジメント等を学んだ。 ② 2015年10月29日～11月6日 研修生1名 研修先：NPO 法人ぱれっと 知的障害者の支援の考え方や仕方を学んだ。また企業との関係の作り方、地域に根差した支援を実施するための取り組みを視察した。 ③ 2015年11月24日～30日 研修生2名
--	--

	<p>研修先：東京チョコレートショー</p> <p>東京・表参道の表参道ヒルズで日本を代表するパティシエがそれぞれお菓子ブースを持つ大きなお菓子の催事があり、パッケージ及びマーケティング、菓子製造の現場を学ぶために催事期間に合わせ、2名の当会研修生に対して本邦研修を実施した。当会事業のベーカリー専門家でもある岡本パティシエも上記催事にブースを出し、当会事業のラオス人研修生も「ラオス ADDP クッキー」を紹介、またセールスやマーケティング技法及び日本で開発されたクッキーの新規レシピなどの習得などを1週間かけて行い、様々な日本のコンフェクショナリー業界とのネットワーク構築も達成された。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>(ア) 高い技能の障害者指導員が育成される</p> <p>①ベーカリー部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際会議のお茶菓子に採用された。主催者が当会のベーカリーワークショップを訪問し、取り組みと商品の質を評価し、会議のコーヒブレイク用のお菓子として、クッキー各種やプリン、シュークリームも提供した。商品の質と障害者指導員の技術が認められた。 ・本邦研修に参加した障害者指導員は、本邦研修で学んだマネジメント方法を活用し、朝礼を実施しようと提案した。始業前の5分を利用し、体調チェック、スケジュールの確認、作業の確認等、情報共有を行っている。本邦研修の内容が他の指導者にフィードバックされ、具体的に実践に移された一例である。 ・当プロジェクトのワークショップに参加するまで、就労を経験のしたことがない知的障害者の研修生がいる。本邦研修参加者が中心となり、作業工程を見直し、リストアップし、整理した。細分化した作業について議論し、障害特性と技能に合わせた適切と思われる作業を切り出した。障害者指導員が共に働きながら、本人の要望を聞きつつ、携わる作業を細かく変更しながら、実際の作業の中で先輩として、指導している。その結果、研修生は10か月間安定して、就労ができている。その経験により、障害者指導員の指導のノウハウも蓄積されている。 ・北部のプロジェクトと連携し、当プロジェクトの障害者指導員が指導者として、北部プロジェクトの研修生たちに指導を行った。指導員として実践を積むことで、本人の指導者としての自覚にも繋がっている。

・高い技能性がラオス人技能指導員候補者に備わり、応用のレシピや自分達でのアイデアを基本にした新しいレシピの開発など、積極的な姿勢が備わってきたため、今後の持続可能なプロジェクトの牽引のためその技能性や応用性が大きな財産となっている。

② I T印刷部門

・指導員候補生は技術的にはまだまだ改善の余地はある。しかし、新研修生が技能研修ワークショップに参加する際は指導員としてP C基礎操作等を指導している。当会事業の裨益者となる障害当事者はほとんどが初等教育あるいは全く教育を受けてこなかった研修生であり、研修生たちはパソコン操作に必要なアイコンなどを理解するための英語力もない。パソコン自体に触れたことがない研修生である。しかし当会プロジェクトのI T印刷部門指導員候補生の受けてきた教育レベルも同様であり、研修段階を経て、丁寧に育成され、日々の実務の中でパソコンを使うことで、着実に技術は上がってきた。その彼等が直接のロールモデルとなることにより新規研修生のモチベーションが高まっている。

・受注数は少ないが、10件の顧客と継続的な提携を結んでいる。スピード重視の作業はできないが、丁寧な対応を続けている結果である。ADDPベーカリーや美容サロンの高度なデザインの販促パンフレットも当会で育成され、今は独立したI T印刷工房を運営している元研修生と共に作成し、当会事業の広報に大いに役立っている。

③車椅子製造・修理・販売、福祉リハビリ機器製造指導員養成研修

今期は更に一般の病院タイプや通常のマニュアルタイプの車いす製造技法から発展し、バスケット車いす製造の技法を日本人及びタイ専門家より学ぶことを達成項目に入れた。今まで通り性能の高い車椅子の修理とメンテナンス方法の指導、及び効果的な販売方法、販路拡大のためのノウハウ講習なども合わせ行われたが、現在ラオスでは障害者スポーツ振興をラオスの教育スポーツ省が本腰を入れて発展させていく施策を打ち出しており、12月にシンガポールで行われたASEANパラゲームにもラオス車いすバスケットナショナルチームが初めて公式にラオス国より出場し、IPC主催の国際大会初出場となった。しかしラオスにおいてバスケット車いすは国際NGOなどの支援でタイ製のバスケット車などが過去に購入され、選手の練習用に使われていたが、激しいスポーツのため、車いすも壊れやすく、メンテナンスや修理もその車いす形状自体が修理に高度な技術が要求さ

れることから、ラオス人だけでは、修繕が困難であり、またバスケット車は一般の車いすとは構造が異なり、部品など手に入らないことからラオス国内でしっかりと修理が出来る技術者もなかなか育成されてこなかった。しかし、当会の3年に渡る車いす製造・修理研修において、車いす製造技術が高い研修生も輩出するようになり、今回も車いすバスケット選手でもあり当会の技能研修の第1期生であるラオス人が、バスケット用車いすの製造・修理工程を研修により習得し、修理以外にもラオス人によるバスケット用車いすが始めて2台製造されるに至った。製造ができることで、メンテナンスもしっかりと出来るようになるために、車いすバスケットボールというハードな環境で使用するバスケット用車椅子をしっかりと修理・維持できる研修生が育成されたことは喜ばしい。障害者スポーツ振興の際にもその技能が十分に活かされることとなる。他方、ラオスでニーズのある高齢者の福祉機器の需要も引き続き前年度比で30%程顧客も増えており、今後もニーズのある高齢者を抱える家庭からいかに需要を拡大していくか販路拡大というセールスを中心としたビジネス研修・広報が重要となってきており、事業終了後には高齢者層もしっかりとターゲットにしたビジネスプランを描いている。

④美容部門

・当会美容部門では引き続き指導員候補生がろう者であることから、美容という職業がろう者でも十分に職能を発揮することができる職業であり、社会経済自立をもたらす重要な業種であることが証明されたと感じる。ラオスのろう者にとって就労の一つの形としてラオス国内で周知されつつある。引き続き、ラオス国立医療リハビリテーションセンター内のろう学校と連携しながら、卒業生を研修生として募っている。また、近隣の住民なども引き続き美容院の常連の顧客として、村が、地域が、そしてそこに生きる人々が支える障害者の就労の場としての「ADDP 美容サロン」はその存在と価値がしっかりと地域に根付き、週に述50人以上の顧客が訪れるサロンと成長している。そしてこのサロンが障害者就労の理解と啓発が地域に広がるリソース拠点となっている。9月15日現在、ろう者の更なる新規研修生も増え、当会は研修生の障害種別の割合で見るとろう者の研修生が6人と多く、彼女たちのコミュニケーションの保障が急務であり、共に働く他の障害種別（身体や知的）の研修生とのやりとりでADDP内で通用しているジェスチャーがあるが、

更にコミュニケーションを深化させるためにも、また情報保障の観点からも当会で研修生の発案で「ADDP手話教室」（講師は2015年にダスキンアジア太平洋障害者リーダー育成事業において日本で1年滞在し帰国したラオス人ろう者）を開設、ADDPのスタッフ、研修生の総勢10名が現在手話を習得している。研修生自らのアイデアで自発的に行う勉強会として発足し、自分たちでニーズを発掘し実践するほどにリーダーシップの能力が備わったことに対し大きな成果を感じる。当会はこれからも経緯を見守っていく。

（イ）企業への支援策提言（CSRの促進）が出来るようになる

- ・ ビエンチャンのホテルに客室に設置するゲスト向けのウェルカムクッキーの提案を行い、ホテルと合意し、実施することができた。
- ・ 私立のインターナショナルスクール3校にクッキーの訪問販売を通じた生徒たちへの障害者理解の啓発を行うことを提案し、快諾してもらい、実施に至った。
- ・ レストランの駐車券をつくる事はあまり難易度が高くないところに着目した障害者指導者がレストラン側に提案し、駐車場の駐車券の受注を継続して行うことができています。
- ・ 提案型のCSRや社会貢献の形を当会が培ってきたノウハウと障害者の働く集団である「ソーシャルビジネス」とし、社会課題に取り組み、その中でビジネスを行い、収益を上げるという新しいビジネスの形を提案し、企業とのパートナーシップという「慈善」から「イコールドなパートナーシップ事業」として障害者が提案する新しい社会貢献の形というプレゼンテーションをラオス側企業に進めていたところ、反応がよく、ADDPから発信されたビジネスパートナーシップが、今ラオス企業に受け入れられてきた。

（ウ）事業運営の完全自立が達成される

- ・ ベーカリー部門は8月1日より、12か月間で、パック換算で42,150袋の販売実績があり、経営的にも黒字であり、日々の製造管理、販売管理、会計事務もラオス人指導員候補生及びスタッフたちが業務を分担して行っている。指導員候補生4名を含めた9人態勢で常時業務を運営している。また常時新規研修生を募集しており、障害種別を越えたピアサポートの職場として、現在は知的障害者、発達障害者（重度の自閉症）も受け入れている。
- ・ 美容部門も事業の完全自立が達成されたことを受け、さらなる収

	<p>入向上や持続可能なビジネスのために顧客管理や利益管理等の経営部門の黒字化に向けて指導員候補生が率先して事業をけん引している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印刷は企業や団体との受注が増えてきており、前述の当会を卒業し、現在起業しているIT印刷・WEBデザイン企業と連携し、絶えず高度な技能を修得できるビジネス環境と連携が始まっている。 <p>(エ) サポート企業が増加する</p> <p>現在、提携している企業及び小売業者、飲食店、団体等は81である。ラオスの大企業や中小企業、小売店、カフェ、レストラン、援助機関、NGO、ホテル、教育機関等、幅広い分野と連携することができる。</p>
(4) 持続発展性	<ul style="list-style-type: none"> ・4事業、特に美容とベーカリーは引き続き伊藤専門家、岡本専門家が継続的に技能の質向上のためのスーパーバイザーとして配置され、不定期ながら指導を続けることとなっている。 ・完全自立にほぼ近い形の安定したビジネス運営が既に構築されており、事業終了後も問題なく運営される。 ・ADDPはラオスの特化した障害者支援団体であり、本事業が終了してもLDPAと連携しながら、アドバイザーとして各障害者のソーシャルビジネスをサポートしていく。 ・障害当事者指導員養成が完了し、技能の高い指導員が養成された。今後はラオス人の障害当事者である指導員達が後進の障害当事者に効果的に技術移転を行いながら当会事業で培った技能が若い世代に継承されていくことは間違いなく、ADDPはその環境が更に整うよう指導員のリーダーシップも育成しながら見守っていく。 ・売上や収支管理も指導員たちがしっかりと行えており、優れたビジネス会計及び職人が育成された。継続的に事業を運営できる人材がしっかりと育成されている。 ・ラオス地方都市では、依然多くの障害者が意欲はあるものの、就労機会に恵まれない状況にいる。地方在住の障害当事者に技能訓練機会を提供するために、積極的に地方都市とのネットワークを構築し、研修生及び継続的に働ける指導員候補を募っていく持続発展のミッションをラオス障害当事者である研修生がしっかりとその重要性を認識し、ピアサポートの効果も経験の中で理解しているので、今後も技術移転や障害者が障害者を支援し、収入向上が担保される良いビジネスサイクルが今後も続いていき、ラオスだけでなく近隣

	<p>の国にも広がりを見せるビジネスと成長していくことを期待している。</p>
--	---